

荒木紀代子先生への献辞

総合管理学部長 進藤三雄

荒木紀代子教授は、2006（平成18）年4月に本学に助教授として着任され、以後13年間にわたり総合管理学部の発展のためにご尽力されて来られました。2019年3月31日付けで定年退職されるにあたり、先生のこれまでのご貢献に対して感謝の意を表し、記念号を捧げます。

先生が本学に赴任された2006年は、ちょうど本大学が法人化された時にあたります。法人化の前に熊本県の政策として本学に看護管理コースを設置することになり、先生は大学院アドミニストレーション研究科に新たに設けられた看護管理コースの教員として熊本県から派遣されました。

先生はそれまで熊本県の保健師として保健所や県庁、保健学院などで業務に従事され、その中で最も長く携わっていたのが保健師の基礎教育でした。そのため、本大学に着任後もそれまでの専門職を目指す教育と違って様々な職業に就く総合管理学部生への教育に戸惑いを感じられたそうです。幸いにも、先生は熊本学園大学で社会福祉学を専攻されていたので、そのことが教育には大いに役立ったとおっしゃっています。そのような理論と実践を兼ね備えた先生は、ゼミ生と一緒に様々なフィールドワークに出かけ、学内とは違う学生たちの生き生きとした表情を感じながら、学生にとって常に効果的な教育を実践されました。

大学院教育では社会人を対象とされ、特に当初は大先輩にあたる管理職の方々学びに来られ、非常に緊張して講義や論文指導をされていたそうです。社会人ということもあり、授業は夜間と土曜日、当初は日曜日にも集中講義が行われていたといえます。平日は、学部生の教育もしながらの指導ですので、なかなか休みも取れない中、大変なご苦勞をされながら本学の教育にご尽力いただきました。

先生ご自身も、仕事をしながら熊本学園大学で学位を取得したという経験がおありで、それだけに社会人学生が研究に取り組みやすい環境づくりを大事にしたいとお考えになったのでしょう。その結果、これまでに40名近くもの修了生を送り出させていただきました。また、修了後も学会発表に至るように継続して指導をされていると聞き、先生の教育にかける情熱に感服する次第です。先生のゼミ生には病院看護師や企業保健師もいらっしゃいますが、熊本県内の行政保健師が殆どだそうで、修了後は職位があがる修了生も多く、また学んだことを実践の場で役立てて大いに活躍しているとのことで、先生の教育実践の積み重ねが今日の本学研究科の評価を大いに高めたことは明らかです。

2011年から2016年3月までの5年間、先生は熊本県から受託された「看護職員の継続教育体

制整備事業」を実施されました。これは、熊本県内の看護職員の継続教育体制を整備するもので、そのプロジェクトの責任者として学内での体制づくりや他大学との協力体制を築かれることにご尽力されました。予算規模もたいへん大きく、スタッフも3～4人確保しての事業だったため、ご苦労も多かったことと想像されますが、その成果としてCPD講座「認定看護管理者サードレベル」の開講につなげていただきました。また同時に、県内の2次医療圏ごとに保健所を中心とした継続教育体制を構築することにもご尽力されました。これら全の取り組みは、先生の研究テーマでもあります公衆衛生看護管理に関する事業であり、事業の成功は先生の研究にかける情熱の賜物と言っていいでしょう。

2014年4月から2年間はアドミニストレーション研究科長を務めていただき、当時は新カリキュラムの検討を開始した時期でもあり、その調整にご苦労いただきました。また、総合管理学会長も務めていただき、総合管理学部の20周年記念事業の責任者として準備からシンポジウムの開催まで、慌ただしい業務を遂行していただきました。

委員会活動では、就職対策委員として学生からの進路や就職の相談のみならず、故永尾教授とともに学生の就職のために病院等の企業回りをするなど、献身的に学生のために汗を流していただきました。また、先生には大学保健センター長も務めていただきました。毎日、様々な悩みを抱えた学生が保健センターを訪れますが、ハード面の制約だけでなくスタッフ不足など十分な支援体制が整っているとは言えない状況の中で、常に献身的に温かく学生に向き合い、安心して相談できる環境作りに努めていただきました。

退職後は、これまでできなかった地域活動に参加されるそうです。特にボランティア活動に関心を持っておられ、まずは、市町村で行われている介護予防のボランティアに参加したいとの希望を持たれているそうです。先生の優しさと行動力が地域の人々を笑顔にしている姿を想像すると、私としても楽しみでもあり、嬉しくもなります。

最後になりますが、本学部を代表して荒木先生に感謝の意を表するとともに、ご退職後のご健勝と、さらなるご活躍を切に祈念する次第です。荒木先生、長い間本当にお世話になりました。そして、お疲れ様でした。